

編集後記

『太宰府市公文書館紀要一年報 太宰府学—』第17号をお届けします。今号は、研究ノート3本、目録1本、論文1本という構成となりました。

まず、小鹿野氏の研究ノートは、天拝山山麓にある「紫藤の滝」の呼称が定着していく過程を近世～近代の史料によって跡付けたものです。そこには武蔵寺創建に関わる虎麻呂伝説と天拝山にかかる菅公伝説が交錯していく過程があり、定着の背景には観光ツーリズムの発展があったと論じています。山村氏の研究ノートは、平成25年に行われた「秋峰」に随行した際の記録調査の報告です。これに引かれた石橋氏による『峰中修法』は、きわめて貴重な記録といえるでしょう。その報告に加えて、「秋峰」のなかで勤行が行われた行者堂の遺跡の様相についても整理しています。高橋氏の研究ノートは、和鏡の一種である草花双鳥鏡が出土した墓について、その遺構と鏡を含む遺物の検討を通じて再評価を行ったものです。草花双鳥鏡の確認例は太宰府では珍しく、これもまた貴重な成果です。それだけに課題として挙げられた他地域の和鏡副葬墓との比較検討によって、その被葬者の実像が解明されることを望みたいと思います。

重松の論文は、古代太宰府の所司について、これまでの研究に依拠しつつ、その形成過程に基づいて分類し、それぞれの運営体制の相違に言及しています。

目録では、第16号に引き続き、「旧社会教育課永年文書目録 4」を掲載いたしました。解題にも示されておりますように、今号の採録対象となった簿冊には戦時体制下の宗教法規等にかかる文書が多く含まれており、また当該期の宗教団体の活動を知ることのできる文書群でもあり、その活用が期待されるところです。

さて、本紀要の編集にあたりましては、前号では九州歴史資料館の小林氏、今号では筑紫野市歴史博物館の小鹿野氏よりご投稿をいただきました。太宰府市職員の寄稿も含めまして、本当に多くの方々のおかげによって、本紀要の刊行が継続していることに思いを致し、感謝に堪えません。今後とも引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(S記)

太宰府市公文書館紀要一年報太宰府学— 第17号

発行日 令和5年3月31日

編集 太宰府市公文書館

〒818-0110

太宰府市御笠5丁目3番1号

TEL / FAX : 092-921-2322

E-mail:kobunshokan@city.dazaifu.lg.jp

発行 太宰府市

印刷 株式会社博多印刷

〒812-0028

福岡市博多区須崎町8番5号

TEL : 092-281-0041

